

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



79



たかはし動物病院長
(富山市)
高橋 明寿

動物の目が白くなった時、最初に思い浮かぶ病気は白内障ではないでしょうか。私が獣医になりたての頃は無治療が多かった印象があります。今では目薬やサプリメントを使われている方が多いと思われる。

白内障では、定期検診が非常に重要になります。検診では「初発」「未熟」「成熟」「過熟」の各ステージを確認します。治療は初発未熟では内科治療、未熟後半からは内科・外科治療になります。進行が早い場合は治療法の変更も必要になってきます。

白内障



白内障の定期検診で使用する器具

要になってきます。定期検診が必要な理由は、水晶体(レンズ)の奥で炎症を起こすぶどう膜炎、続発緑内障、網膜剥離、水晶体脱臼などの合併症があるためです。これらは早期に治療を始めなければなりません。例えば続発緑内障では、治療が遅れ、目の痛みにより日常に支障が出る

よつなら、眼球摘出や義眼挿入などが必要になります。白内障は視覚障害を起こすだけでなく、合併症を引き起こす可能性があることを覚えておいてください。

ここで少し外科治療について触れたいと思います。目的は視覚の回復ですがそれだけではありませ

身が白内障手術を経験されたという方が時々います。その経験から犬猫にも同じように手術を受けさせてあげたいと言われるケースもあります。

ただ良い面ばかりではありません。手術による合併症、麻酔のリスク、治療費などを考慮しなければなりません。人のようにすぐに

合併症懸念 検診が重要

ん。先ほどから紹介している合併症の発生リスクを減らすことができます。手術のタイミングは白内障のステージが大事になるので、ここでも定期検診は重要になってきます。

飼い主の中には、自

終わる手術ではなく、入院も必要になります。メリット、デメリットを十分理解した上で判断してください。

白内障に対して内科治療、外科治療のどちらを選択するにしても重要なのは定期検診です。ステージに合わせて治療を継続していた